

科学者委員会（第22期・第36回）議事要旨

- 1 日 時 平成25年12月17日（火）17:00～18:15
2 場 所 日本学術会議 第6-B会議室（6階）
3 出席者 小林良彰委員長、長野哲雄幹事、荒川泰彦幹事、
（第一部） 佐藤学委員
（第二部） 竹縄忠臣委員、桃井眞里子委員
（第三部） 北里洋委員、氷見山幸夫委員
（地区会議）大隅典子委員

4 配布資料

- 資料1 第34回及び第35回議事要旨（案）
○資料2 学術の大型研究計画分科会関係
○資料3 科学者委員会 広報分科会内規（案）「学術の動向」への
国際的科学賞の受賞記事掲載について

5 議 題

- （1） 科学者委員会 広報分科会内規（案）「学術の動向」への国際的科学賞の受賞
記事掲載について

広報分科会において、国際的な科学賞の増加、日本人研究者の受賞例の増加に伴い、「学術の動向」に紹介欄を設けることを審議した結果の説明があり、以下を内容とした内規（案）を承認した。

- ・ 文部科学省科学技術・学術政策研究所が調査対象としている科学賞を中心に、対象となる科学賞を列举した上で、
- ・ 本人の承諾が前提であるが、会員、連携会員の推薦を受けて、広報分科会で掲載の可否を決定し、科学者委員会です承を得て、掲載することとし、
- ・ 対象以外の科学賞について対象への追加を希望する申請があった場合は、広報分科会で審議の上、本内規を改訂し、審議結果を科学者委員会に報告する。

- （2） 第22期学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン策定について

- ・ 学術の大型研究計画検討分科会委員長から説明があり、科学者委員会委員長より、科学者委員会の審査基準として、利益相反がないか、デュアルユース問題を生じないか、社会の理解が得られるか、すなわち社会との摩擦がないようになっているかの三点が示された。
- ・ その上で、各研究計画を子細に検討した結果、更に特段の意見があれば分科会委員長に伝達することとなった。
- ・ 今回の策定作業を踏まえ、次期マスタープラン策定時、重点計画とその他の計画の中間的なカテゴリーを設けるかどうか検討することを申し送ることとなった。
- ・ 次回科学者委員会で、策定プロセスなどを記載した大型研究計画のマスタープランの提言案を審議し、幹事会に諮るかどうかを決定することとなった。

- （3） その他

- ・ 第34回及び第35回の議事要旨案については、約1週間かけて各委員が確認の上、意見があれば、事務局に連絡することとし、特段の意見がなければ、そのままHPに掲載することとなった。
- ・ 次回科学者委員会は、面談方式で1月27日（月）13時～15時で開催。引き続き、「第22期学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン策定について」を議題とする。

以上